

## 会 議 録

会議名	令和6年度第2回印西市地域福祉計画推進委員会会議
開催日時	令和7年3月25日（火） 午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	市役所 会議棟 204会議室
出席委員	松山毅委員長、矢野忠行副委員長、大下誠委員、嶋田孝雄委員、近藤幸一郎委員、三島木健委員、岩本清委員、田畑一生委員、篠田吉範委員、塚田昌幸委員、鈴木幸子委員、佐久間郁美委員 計12名
欠席委員	平野浩二委員、笠井幸夫委員、御子柴寛委員 計3名
出席職員等	[事務局] 社会福祉課 澤田課長、山田課長補佐、坂巻係長、山崎主査、河村主任主事
傍聴者	なし
会議次第 議 題	1 開会 2 議事 （1）地域懇談会の結果について （2）その他 3 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・【資料1】 地域懇談会の結果</li> <li>・【資料2】 第5次印西市地域福祉計画策定ためのアンケート結果報告書</li> <li>・【資料3】 第4次印西市地域福祉計画の成果評価、実績報告（令和3～5年度）</li> </ul>

## 会議概要・審議経過

### 1 開会

【事務局】 「令和6年度第2回印西市地域福祉計画推進委員会」を開会します。

資料の確認、会議の公開と会議録作成のための録音、会議の傍聴について報告

### 2 議事

【議長】 議題に入る前に、会議録の署名委員を指名したいと思います。署名委員は名簿順に、近藤委員と三島木委員をお願いいたします。

#### 議題（1）地域懇談会の結果について

【議長】 「地域懇談会の結果について」、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 議事(1)について説明

【議長】 ちなみに、皆さまの中で懇談会に参加された方はいらっしゃいますか。私は伺えなかったのですが、丁寧にまとめていただいて、写真で当日の様子もよく分かりました。皆様から、ご意見やご質問がございましたら、お願いします。

【委員】 地域懇談会は非常にいい取組だと思います。1回目で説明があったかもしれませんが、参加者に対して開催の周知はどのようにおこなったのでしょうか。また実際にどのような方が参加されたのでしょうか。

【事務局】 広報いんざいやホームページに掲載するほか、チラシを作成し、公共施設等にチラシを置いて周知しました。民生委員、支部社協の方、広報やチラシを見て興味を持っていた市民の方にご参加いただきました。

【議長】 そのほかはいかがでしょうか。

【委員】 私も参加しました。船穂地区でおこなわれたので顔見知りの方ばかりで新鮮さは欠けていたかと思います。周知は難しいし時間もなかったと思いますが、地域福祉のことを考えていらっしゃる市民の方たちと話ができると期待して行ったので、少し残念でした。参加した後に支部社協でも地区民児協でも話したのですが、果たしてあの懇談会がどこまで第5次地域福祉計画に反映されるのか、楽しみだという意見が多かったです。共通して言えるのは、ずっと前から皆さんがほぼ同じように認識している問題点があるまま残っているということです。地域福祉計画を市が作成し、市民に対して方針を示したにもかかわらず変わっていないということを含め、計画にどう反映するのかが難しいと思います。また、懇談会の運営について、もっと市が前面に出てこないのかという辛口の見解もありました。

- 【事務局】 貴重なご意見ありがとうございます。
- 【委員】 私は全部の回に出席しました。岩本委員がおっしゃるとおり、参加者は地域で既に活動している民生委員や社会福祉協議会の職員などがほとんどで、市民の方をお誘いしたのですが、そもそもこうした地域福祉計画があることも、話し合いがされることも知りませんでした。実際に出席した市民の方や地域の事業者には、このような話し合いに出られてよかったとおっしゃる方もいました。せっかくいい話し合いができたのに、幅広いメンバーではなかったということが残念に思いました。
- 【議長】 5つのエリアでやっているのですが、懇談会となると1会場に30~50人くらいはしないと、懇談会を開いたという証拠にもならないということがあります。開催することが大事ですし、なぜこれしか集まらなかったのかということは今後の検討課題にさせていただきたいと思います。鈴木委員がおっしゃるように、非常にコアな内容が多くて、やはり日頃、地域活動をされている地域福祉関係者が出席されていたということです。短時間でこれだけの人数でこれだけの意見が出るということは、話し合い自体はかなり盛り上がったのだらうと思いますが、もったいないと感じました。
- 【委員】 私も出席して面白い議論をさせていただきました。確におっしゃるとおりですが、民生委員や社協の方々は普段携わっているので、ある程度、住民の皆さんの苦情や要求、悩みをご存じの方が多いということで、一般の方々のご意見も含まれていると思うので、それほど否定的になることもないと思っています。一般の方々だともっと細かい話が出てきて收拾がつかないのではないかという気持ちもあります。通常、私どもが議論する中でもよく出る問題がほとんどでしたが、今回の懇談会のデータを基に、どのようなことをポイントにして今から事務局がまとめていくのかということに一番興味があります。主催者側として、目新しいことがあったのかは分かりませんが、お気づきになった点はありますか。
- 【事務局】 今後、私のタスクとしては懇談会の意見、アンケートを踏まえてどのようなところをポイントにするのかという話し合いをおこなうことになります。感じたこととしては、話し合いで出てきた要望や意見のほとんどは何らかの近しいサービスが既にあるということがすごく印象的でした。一方で、もっと使おうと思えるサービスにするために必要なことというのは、継続的なテーマかもしれませんが、改めてポイントと思わないとなかなか進んでいかないと思います。情報の提示の仕方と、重層的支援体制という仕組みも始まる中で、まずはどのような属性でも受け止めるという理念がはっきり示されているので、窓口の在り方をどのくらい具体化できるかがポイントだと思っています。
- 【委員】 相談する窓口がないとよく言われますが、本当はたくさんあるのです。情報がないというのもありますが、恐らく窓口が多すぎてどこに行けばいいか分からないというのもあると思います。最近では地域包括支援センターが有名になりつつありますが、中心となって振り分ける窓口が必要だと思います。どこかの市ではネットワークが発展していて、専門機関などにつないでくれる組織が有効に機能していると聞いたことがあります。ネットワークを整備することが重要だと思います。

- 【委員】 私は結局参加できませんでしたが、結果を見た感想としては、もやもやしています。日頃から問題意識を持っている民生委員がこのような場で率直な意見を出したということで、全て事実だと思いますが、ここで出した意見が次にどうなるのか、誰がどう応えられるのか、どのような優先順位を誰が決めて実行できるかが重要です。どのように皆さんにフィードバックするのかということもあります。次のアクションにつなげるものにしてほしいです。
- 【委員】 皆さんと同じような印象ですが、懇談会の意見もアンケート結果も共通している感じがします。今、行政が持っている施設や機能がいくつもあると思います。私の立場で言うと、身近な地域で気になるケースで一番多いのは高齢者のことです。まさにシルバー人材センターも高齢者就労支援センターもやっていることはここです。個別にいろいろな意見が出ていますが、これをうまく活用していただければ対応できそうなのに、情報提供がうまくいっておらず、機能や組織に対する認知度が上がっていないのです。アンケート調査では相談相手として家族、親族、友人が一番多くなっていますが、まずここにメスを入れることで今持っているコンテンツで十分対応できるのではないかという印象があります。この優先順位を上げてやっていただいて、それでもできないことがあれば違うやり方を考えれば良いと個人的に思いました。
- 【議長】 情報をどのように提供、共有し、今ある資源をどのように活用するのかということです。この結果を活かしていくための分析が必要です。既存の政策や事業があるのに使われていないということをどのように考えていくのか、今後どのように政策に反映していくのかというプロセスの部分について、事務局で考えていることはありますか。
- 【事務局】 今回の地域懇談会やアンケート調査の結果については、傾向や問題点を精査して、私たちも確認してまいります。今後、これを基に次期5次計画の骨子案を作成し、夏頃に予定している次回会議で皆様にお示ししていく予定です。
- 【事務局】 これをどう分析するかというところですが、皆さんが手書きで書かれたものを解読して書き起こすまでで今回は終わってしまったので、これを踏まえてどうするかという検討は、まだこれからという状況です。ここで終わりとは考えておりません。
- 【委員】 私も2か所の懇談会に参加しました。地域の困りごとを聞く機会としてはよかったのですが、社協の職員としては、同じテーブルで圏域の困りごとを話すのは難しいと感じました。懇談会に参加した方がボランティア登録してくださって、地域福祉に関心を持つ方が行動を起こしてくれたことがありがたかったです。皆さんがおっしゃるように、情報があれば解決するよと感じる部分があり、制度や公的サービスではない部分で問題提起されているところが多い印象があるので、社協や地域住民の協力を得なくてはいけない部分かなと報告を見て感じました。
- 【委員】 開催日や時間帯を見ると、若い方は参加できません。年齢層によって問題意識が違ってくるので、地域の共通の意見というよりは部分的なものだと思います。幅広い年齢層に参加してもらえる開催方法を考えられると、次に活躍するような世代の方の意見も混ざ

るのではないのでしょうか。この開催方法では当事者の方だけが参加しているように感じます。

【議 長】 参加者の年齢層は把握していますか。

【事務局】 統計は取っていませんが、60、70代が多かった印象です。一部会場では20、30代の方にも参加していただいています、平均年齢は高かったと思います。

【委 員】 意識的に幅を広げて集まってもらえる開催方法を期待します。

【議 長】 今回は土日開催なども検討してください。

【委 員】 アンケート結果にもありましたが、地域福祉計画を知らない人が大半のようです。小学生などに地域福祉計画について説明する機会があれば、幅広い年代に関心を示してもらえるのではないのでしょうか。

【委 員】 参加人数や年齢層は明確にすべきだと思います。社会福祉に関する計画を知らない人が多く、具体的な内容が示されて初めて関心を示すことができると思うので、中身を提示することが大事だと思います。懇談会の結果に「ディズニーランド」という意見があって、誰かが地域に何かを求めているということだと思うので、誰のどういった意見なのかが気になります。自分が興味を持って参加したくなる取組が必要だと思います。

【事務局】 この意見については、地域のつながりといった関係の意見が多く出ていた中で、そのためには楽しめる場が必要という意味で「ディズニーランド」という言葉を選んだということのようでした。

【議 長】 意見の背景まで聞き取れるのが懇談会だと思います。たくさんご意見をいただいたので、今後どのように生かしていくのかについて整理、分析していただきたいです。計画を作ることが目的ではありますが、そのプロセスで多くのご意見をいただくことと、計画を作っていることを知っていただき、多くの方に策定に参加していただくことを地域福祉計画では大事にしています。出来上がる前から関わってもらい、出来上がったものを皆さんに理解してもらって、一緒に進めてもらうためのプロセスを大事にすることが懇談会を開く狙いです。懇談会の目的が十分に認識されていなかったことは今後の反省点かと思います。将来の印西市を担う子どもたちにまちづくりや福祉のことを考えてもらうために、学校、教育委員会と連携し、モデル校をつくるなどして、子どもたちと議論するような事業展開の協力をお願いする手もあります。こども計画とコラボして地域福祉計画の策定や推進を考えることも実現可能だと思います。

地域福祉計画は上位計画と言われているので、印西市としてまちづくり、福祉をどう進めていくかという大きな方向性を示すもので、若干抽象的な内容になりがちです。その下に個別計画があり、十分に拾えていない部分が地域福祉計画の実行計画になります。ビジョンとして、行政が地域福祉計画をどのように利用して10年後、20年後の印西市をつくっていききたいのかということです。人口流入で若い世代が増える一方、過疎地域も増えているのが印西市の特徴です。20年後、どのようなまちになっていてほ

しいのか、福祉・まちづくりの切り口で示すビジョン計画になりますので、懇談会で出た意見をどのように分析し、優先順位を付けて今おこなわれている政策に結び付けていくのかということです。現状あるサービスがなぜ使われていないのか、使われやすくなるためにどうしたらいいのかということが骨子案に示されてくると思います。やることが多くて大変ですが、とても重要なキーワードがたくさんありますので、ぜひ生かして行ってほしいですし、骨子案にどのように反映されたのかも分かるように示していただき、タウンミーティングを開いて地域の方々にフィードバックすることも検討していただきたいです。行政と市民の信頼関係を見せていただけるといいと思います。

分析について、報告資料1の3ページ以降に結果のまとめがありますが、高齢者、障がい、子育てなど属性ごとに分けることも課題を明確にする上で必要ですが、どのような人がどのようなことで困っているのかという具体例に加えて、支援する際の難しさが一覧になっているのは珍しいと思います。属性でなくニーズで分けることで、高齢者だけでなく障がいのある方や子育て世帯の方も同じことで困っているということが分かれば、地域としての課題が見えてきます。支援する際の難しさに挙げられていますが、「耳が遠い」「目が見えない」という理由で人と会っても疎外感を感じて外出しなくなる人が多いと聞きます。このようなことに留意したサロンや、聞こえなくても参加できる麻雀、静かな環境でお茶を飲める場などを企画するきっかけになると思います。面白いデータなので、切り口を変えて分析し、有効に活用してほしいです。

## 議題（2）その他

- 【議長】 次に「その他」について、ご説明をお願いします。
- 【事務局】 議事（2）について説明
- 【事務局】 資料3については特に説明はないのですが、令和3年度から続いている計画の過去の会議録や評価を参考資料としてお配りしています。今回、アンケートと懇談会を実施する中で、相談窓口がたくさんあっても実際に相談に行く人がいないという意見が出ていて、相談窓口を知らない人も多いようです。実際に福祉の総合相談窓口は設置していますが知られていない現状があるので、次期計画ではどのような相談を受けても適切などころにつなげられるネットワークの構築に力を入れていきたいと思っています。懇談会でも同じような意見が出ているので、アンケートと懇談会の意見を踏まえて進めていけたらと思っています。
- 【議長】 資料2、3についてご説明いただきましたが、ご意見、ご質問はありますか。
- 【委員】 資料3は評価がA～Dの4段階ですが、どのような定義ですか。
- 【事務局】 A「とても成果があった」、B「成果があった」、C「あまり成果がなかった」、D「成果がなかった」ということで表現しています。
- 【委員】 今回の地域懇談会の結果とアンケート結果報告書は、どちらも目的としては地域の福祉課題の情報収集だと思います。これで情報収集が十分かどうかを判断しかねるので、皆

さんにお聞きしたいです。個人的には、私のように初めて地域福祉計画を見た人や、知らない方にもランダムにアンケートを取っていたり、地域懇談会も開催して個別に具体的な困りごとの情報も収集したりしているので、ここにこれ以上労力を費やすより、課題解決に振り向けたほうが良いと感じました。

**【事務局】** アンケート調査については無作為で3,000人を抽出して、52.3%の回収率でした。私たちとしてもなるべく多くの方にご意見を聞きたいところではありますが、アンケートとしては高い回収率だったかと思っています。地域懇談会については、平日の開催のため働いている方や若年層の参加は難しく、年齢層の偏りがあったというご指摘をいただいたので、今後ご意見を聞く機会があった場合には参考にしたいと思っています。情報収集ばかりに力を入れるのではなく、これを基に課題解決に力点を置いていきたいと思っています。今後、計画の素案ができれば改めて市民の方にパブリックコメントとしてご意見を聞く機会もありますので、また意見を反映できればと考えています。

**【委員】** 資料の106ページのポートフォリオの分析結果が見やすいと思うのですが、アンケートや懇談会の結果とほぼ一緒です。これを受けて印西市として今後どうしていくのかを検討するのがこの委員会の趣旨だと思います。個人的な意見ですが、市の各支所や出先機関に、常駐は難しいと思いますが、1週間、10日間、1か月など、市民の声を聞く機会を設けて、計画の中に入れ込むことができれば、推進委員会の成果になるのではないかと考えました。市として市民の声を聞いていかなければいけないと市長もおっしゃっていますが、そのためには聞く場を設けることも計画の中に入れるべきではないでしょうか。パブリックコメントや市長からのSNSの発信はしていますが、関係者は見ようと思いますけれども、そうでない人がたくさんいるのが現実です。皆さんの声をいかに行政に反映できるのかを検討していかななくてはいけないのかなと感じました。

**【議長】** ポートフォリオ分析結果を踏まえて、どのようにニーズ調査をするのかというご意見だと思います。事務局で地域福祉計画を作るために、市民アンケート調査と懇談会、団体のアンケート調査のほかに反映していこうと思っている情報はあるのですか。

**【事務局】** 前回の懇談会でも少しお話ししましたが、今回の地域懇談会やアンケートでも移動、買い物に特に課題になっているので、項目の少ないアンケートを作成し、順次市内を回って地域の集まりなどでお話を聞いています。今後、計画に反映していければと考えています。

**【議長】** 今回、アンケート結果や懇談会に欠けている属性が子どもや障がい者、外国籍の方です。広く市民の声を聞くのであれば、そういう方々の声も含めた情報を聞かなければいけないのですが、難しいのであれば、行政は障害福祉計画や子どもの計画、生活困窮に関する調査や計画など、さまざまな調査をしていると思うので、地域福祉計画に関連するものを提供していただいて反映させるのも十分かと思います。地域福祉計画のために新しく情報収集をしなくても、既存のものを活用することも可能だと思いますので、うまく使っていただくといいと思います。

1つ質問ですが、回収率50%というのはかなり高い数字です。大体4割いけばいいほ

うだと思えます。郵送とオンラインの内訳は分かるのですか。

【事務局】 オンラインが確か2、3割程度で、若年層に絞ると5割を超えていたかと記憶していません。

【議長】 回収率が高かった理由の1つが2次元コードの活用で若い世代の回収率が高まったということであれば、情報収集の在り方として1つの成果だと思えます。そもそも情報源の妥当性に疑いがあると計画そのものが否定されてしまうので、大事な視点だと思えます。

【委員】 87ページのポートフォリオ分析結果で、「福祉関連情報が充実したまちづくり」、「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」、「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」といったところがアンケート結果としては重要度が低く、事業を見直してもいいのではないかという分類に入っていますが、この部分は一番大事な部分なので、計画する上でここを削るといのはあり得ないと思えます。79ページに「どの程度重要だと思えますか」という項目がありますが、このようなアンケートでは自分に直結していない部分が結果として下になってしまいますので、十分ご検討いただければと思えます。民生委員として、中身を見ていてほとんど知らないということがあり、社協でも知っていることが非常に少ないということもあります。民生委員の広報でいろいろやりましたが、周知に限界を感じました。

【議長】 ポートフォリオについて、重要度や満足度という分け方はそもそもワードがどうだろうかと思えますが、事務局としてはいかがでしょうか。

【事務局】 左下の重要度も満足度も低い分野については、満足度を上げることが大事だと思えますので、重要度が低いからやめるということはありません。向上するためにどのようなことに取り組めばいいかということの参考にしたいと思えます。

【議長】 重要度というより関心度といったほうがいいかもしれません。「事業検討ゾーン」というのはどういう意味なのかなと思えました。分かりやすい分け方で面白いと思えますが、あくまでアンケート結果から見えることなので、必ずしもこれが実態を反映しているわけではありません。

【委員】 アンケートの中にも頻繁に出てくるテーマですが、今後の計画の見直しというのは共通だと思えますが、ボランティアというのは、結局、個人に委ねられていて、極めて不安定な状態だと思えます。位置づけを明確にしたいのは、今、現在どのくらいの年齢層の方が配置されているのかという実態です。今サポートしている方が5年後にはサポートを受ける側になっているかもしれないので、継続性を考えると、現実的に予算をつけることも必要かもしれません。ボランティアが大事だと認識していても、身近な人がサポートを受けているという方でないと自分が参加する実感はなかなか持てないと思えます。地区によっては年齢が若く、大切さは分かっているでも時間を割くことはできないという意識が見えます。今ボランティアに支えられているものが5年後に不安定になってしまうということを考えて、代替案や改善案を考える必要があります。関係人口とし

て、高校生や大学生がいるのであれば、有事の時にサポートを受けられる関係性を築けるよう、学校と市でタイアップするようなことも計画に盛り込んで、アクションにつなげていくことを考えてほしいです。

【議 長】 ボランティアについて現状把握されていることを説明していただけますか。

【委 員】 ボランティアといっても範囲が広く、市民活動支援センターの分野もありますが、令和5年度末の状況で、社会福祉協議会にあるボランティアセンターに登録されている方は1,252人です。団体に属している方が1,210人、個人が42人と把握しています。傾向として高齢の方が多く、担い手は不足していて、世代間の入れ替えは不十分だと認識しています。社会福祉協議会の活動に関するボランティアという部分では社会福祉協議会を知っていただくことや、今後、若い世代にボランティアをやっていただくためにインセンティブ的なところを考えていくこと、企業の従業員や学生など広い分野に働きかける仕組みづくりはしていけないといけないと思います。5年、10年先を見据えた何らかの取組を考えていかななくてはいけないと考えています。

【事 務 局】 地域福祉の担い手不足は私たちも実感しています。民生委員に限らず、地域福祉などの活動の担い手は大事だと思います。市民活動支援センターには福祉的な活動をしている市民活動団体もあるので、そういったところと市の福祉について連携できることはないか、私どもも模索しているところです。担い手の育成にも重点を置いた計画を作成したいと思っています。

【委 員】 ボランティアという言葉をちりばめるのではなく、1つの課題・テーマとしてみんなの目に留まるような魅力や継続性、実効性のあるものを計画に入れられるといいと思います。

【委 員】 アンケートの調査結果の総括として1～8の項目を作っていただいています。実際に地域福祉や民生委員をしている身として厳しいものを感じました。次の計画にどのように反映させるのが大事だと思っています。やはり、地域福祉は困らないと実感が湧かないので、本当に困っている人の意見しか反映されませんが、アンケートを取った内容で自信を持って計画を作っていくしかないと思います。市が作る地域福祉計画はあくまで制度設計だと思うので、市民にとって活動しやすい、理解しやすいものになればいいのです。夏に細かい計画が出てくるのを楽しみにしています。

【議 長】 いろいろとご意見をいただき、宿題が多かったと思います。これだけきちんとアンケートを取っていただき、貴重なご意見もありましたので、どのように計画に反映していくか、現状の課題を整理しながら施策との突き合わせをして、妥当性を評価する中で、今後あるべき印西市の地域福祉のためにどのような新しい視点なり継続するものを打ち出していくかという資料を次回会議で議論することになると思います。ボランティアと地域福祉、行政というのは関係が難しく、何でもボランティア任せでは「安上がり福祉」と言われてしまいますし、行政は住民や市民の主体的・独立的な活動にどう関わるのかということで、放っておいて育つわけではないということも今日の議論にありました。

今、目の前で困っている方だけでなく、いずれみんなそうなるかもしれないので、地域で助け合えるよう住民の意識を喚起したり、社会福祉学という予防的な福祉の観点を含むときに公的な責任でやるべきことを考えると、行政が地域福祉計画を作る意義が問われてきます。改めて、印西市として地域福祉計画を作るということがどういうことを目的とするのか、事業者の役割は何なのかということが明確に打ち出されると、市民は何をするか、地域は何をするかという話になってきます。方針なり姿勢をまずお見せいただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【委員】 第4次地域福祉計画の成果の評価と実績、令和3年度から令和5年度の資料を頂戴しました。令和6、7年度についてはいつ頃評価されるのでしょうか。令和6年度はまだ終わっていないのでこれからだと思いますが、評価したものをしっかり還元してほしいと思います。また、災害時の要支援者について、令和3～5年度はなかなか良い評価となっていますが、令和5年に印西市民の中で災害時に手助けしてほしいという人が2,400人を超えている中、実際にできた個別計画は200数件と、1割も達成していません。これを踏まえての評価なのでしょうか。数値を見た上で各部署は評価してほしいです。

【事務局】 評価の時期については、今年度が終わり次第、実績等々を評価し、次回の推進委員会で報告する予定です。避難行動の人数については、確かに個別計画は1割ですが、町内会や自主防災組織にも協力いただいて個別計画を作るので、個人情報等の関係もあり、なかなか進まないところがあります。こちらとしては、その中でも200件くらい達成できればいいだろうということでこのような評価になっています。もう少し上げていかなければいけないのは認識しています。

【委員】 第1回会議の議事録は作っていないのですか。

【事務局】 作成したので、ご希望であればお配りします。

【委員】 皆さん忙しい中時間を作って委員会に出席しているので、前回議事録を出すのは当然かと思えます。

【事務局】 今回の議事録と合わせてお送りします。

【委員】 2、3日前の読売新聞に訪問ケアの人手不足についての記事がありました。印西市では、ヘルパー不足などの問題はないのですか。

【委員】 訪問介護の事業所が印西市内に4事業所しかないのですが、時期によっては受けられないこともあります。ヘルパーの高齢化、人材不足については、ほかの市町村と大きく状況は変わらないと思います。

【委員】 給料が低すぎるということはありませんか。

【委員】 ヘルパーの介護報酬は下がっています。

- 【委員】 国の問題なので、市で改善することはできないのですか。
- 【委員】 国で決まっています。
- 【委員】 印西市で小規模多機能という形で訪問事業などをしていますが、職員の高齢化の問題や、やる気があっても免許がないなどの問題があります。報酬が低くても構わないという志が高い職員はいますが、それに甘えるわけにもいかないので、ぎりぎりです。
- 【委員】 処遇改善についてはどうでしょうか。
- 【委員】 処遇改善については、社協としては1～3のうち一番加算の少ない3です。社協の現状として、年齢の低いヘルパーで40代なので、下の世代は入ってきていませんし、一番上の方は70歳くらいです。充足しているかは把握しかねますが、当団体だと、多少余力がある形で、ご依頼があれば受けられていると思います。今後、ヘルパーの高齢化が進むと厳しいと思います。
- 【委員】 高齢者福祉の分野になってしまおうと思いますが、体制整備事業を市として進めていかなければならず、今は要支援、要介護1など要介護度の軽い方たちについては訪問系のサービスなども見直さなければいけない時期が来るかと思います。介護保険も変動していく中で、地域福祉計画と合わせてどう考えていくのかということも注視していきたいと思っています。
- 【議長】 介護保険も制度が変わっていく中、在宅で暮らしている要介護度の低い方を介護保険から切り離していくと、担い手として期待されているのが地域住民のボランティアです。市としても、地域の中の助け合い・支え合い、ボランティアを利用していく方向の中で、NPOが担い手となったときに事業として報酬を払えるのかどうか、介護保険の制度ではなく印西市として横出しでできるのか、そうした対応ができれば、印西市内でマンパワーの確保、障がいのある方々の就労と結び付けるなど、色々なやり方があります。事業的な話になりますが、地域福祉計画だから議論できるところでもあるので、骨子案の中で今のような問題意識も議論していき、介護保険事業計画とどこを一緒にできるのかということも考えられると面白いと思います。
- 【委員】 令和3、4、5年度の議事録をいただきましたが、今回のアンケートや懇談会の結果を受けて、新しいものが次回できるということですか。
- 【事務局】 それは第4次なので、今の計画の実績です。令和7年度で期間が終わります。
- 【委員】 基本目標などが全て変わってくるということですか。
- 【事務局】 全部かは分かりませんが、その点について、今ご意見を聞いて見直しています。
- 【委員】 次回、基本目標などが示されるのですか。

- 【事務局】 骨子案なので、第5次計画としてこういったところをポイントとして計画を立てるのかという枠組みを次回お示ししたいと思います。
- 【委員】 18ページくらいまでの大枠ということですか。
- 【事務局】 細かいところはその後詰めていきますが、大枠を次回お示しできると思います。
- 【委員】 ずっと同じ問題が残っていて解決していないということもありますが、維持するということは衰退をたどることだと思います。若い世代に世代交代して5年後にどうなるのかということ考えると、新しいことが加わったほうがいいと思ったので、次にどういうものが出るのかという質問でした。
- 【委員】 先日、新聞に出ていたことで思い出したのですが、優秀な人材が多くいるインドと印西市がタイアップするなど、外国人のリソースを今後継続的に確保していくことも視野に入れる必要があると思います。
- 【委員】 意見ではなく、周知をしたいと思います。保護司会を代表して来ています。アンケートの72ページ、問35に、我々が啓蒙活動で盛んにおこなっている「社会を明るくする運動」について記載があります。印西市では市長を委員長として社会を明るくする運動青少年健全育成大会を毎年開催しています。今年は7月12日に文化ホールで開催します。次世代を担う子どもたちを対象に、社会をよくするためにどのような行動をすればいいのかという作文も実施していますし、ひまわりのはがきを描いてもらって展示したりもしています。今年は保護司の寸劇的な催しも考えていますので、これを機に運動と保護司について知ってもらえればと思います。
- 【議長】 このような会議に保護司の方が入ることはあまり多くないと思いますので、この場を活用していただければと思います。次回へのハードルがだいぶ上がったようですので、期待したいと思います。では、議事は以上として、事務局にお返しします。

その他

- 【事務局】 議事進行ありがとうございました。皆様には長時間貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。令和7年度の地域福祉計画推進委員会の開催については、年3回程度を予定しています。次回は7月下旬から8月上旬ごろに開催を予定していますので、日程等が決まりましたらお知らせします。
- 「令和6年度第2回印西市地域福祉計画推進委員会」を閉会します。

令和6年度第2回印西市地域福祉計画推進委員会会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 7 年 5 月 1 日

署名委員 三島木 健

署名委員 近藤 幸一郎